

センターだより

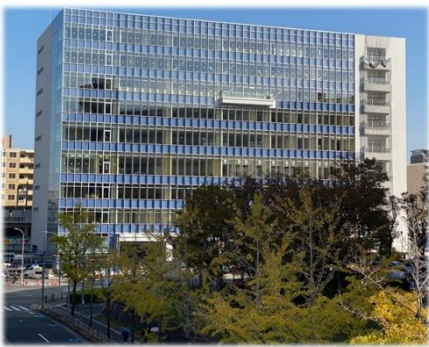
11月号

令和5(2023)年11月1日発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@city.suita.osaka.jp

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

教育センターは南千里に移転します!

現在、出口町にある教育センターは、令和6年4月より「吹田市総合防災センター」(南千里駅前)、通称DRC^{ディーアルシー}(Disaster Reduction Centre) Suitaに移転します。同施設8・9・10階が教育センターの施設です。



DRC の各フロア

10階	教育相談室
9階	教職員等研修室、教育センター事務室
8階	教育支援教室、研修室(兼体育室)、情報科学室
6~7階	土木部
1~5階	消防

移転に伴って大きく変わることの一つは、現在2つの施設で活動している教育支援教室(光の森・学びの森)を統合し、新たな教育支援教室としてリニューアルすることです。可能性を秘めている一人ひとりの多様な子供たちが成長できるよう、「誰一人取り残さない・孤立や孤独を感じない・自分らしさを発揮できる」という3つのコンセプトのもと、子供たち自身が多様性を感じられる空間を目指し、教育委員会で準備を進めています。

また、教職員研修については、現在、教育センターだけでなく、様々な施設も利用しながら実施していますが、移転後は、24名、54名、90名、200名用の4つの研修室と情報科学室がありますので、ほとんどの研修や担当者会等をDRCで実施することが可能となる予定です。

魅力ある学校づくり研究会

令和5年度は、「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」(動画教材)の効果的な活用について、研究を進めています。「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」は科学的根拠に基づき作成されています。その科学的根拠に基づいた知見と、学校現場の教員の感覚を織り交ぜながら、どう子供に力を付けていくのか、研究会で考えていきたいと思えます。

まずは、動画教材をどのような場面で活用できるか、研究員が積極的に意見を出し合い、具体的な授業プラン等を検討しています。「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」を活用した実践で、効果的だったという事例について、魅力ある学校づくり研究会に教えていただくと、より研究も深まります。研究員や教育センターの担当までご連絡いただくと嬉しいです。よろしくお願いいたします。

研究会に参加したい方は、各校の管理職に希望をお伝えください。今からでも、魅力ある学校づくりをめざして、ともに研究を重ねていきましょう。

インクルーシブな学校づくり教育研究会

令和5年度は、「子供と*社会モデルを考える」、「学校で*インデックスを使う」、「合理的配慮の仕組みをつくる」の3つのプロジェクトにわかれて研究を進めていきます。社会モデルが学校さらには社会により浸透していくためにどのような取組ができるのか、インクルーシブな学校づくりのためにインデックスをどのように活用していくことができるのか、学校を誰もが安心して楽しく通える場とするために学校がどのように合理的配慮を提供していくことが必要なのかなど、学校がどの子供も排除することなくインクルーシブであるためにどのようなことができるのかということの研究会で考えています。

*社会モデル:誰がどのように困り、不利益をこうむるかは個人の心身機能によって決まるわけではなく、社会が誰を中心につくられているかによって決まるという考え方。

*インデックス:教職員が主体的に、学校のあらゆる場面をインクルージョンの観点から見直し、改善することをサポートする『インクルージョンの指針』というガイドブックのこと。吹田市ではこれをもとに、令和4年度の研究員が、34の設問を選定しリストにまとめた。

さつきらるーむ さつきらるーむ

経験年数の少ない教職員のいろいろな悩みを
個別相談できるところです！

- ◆ 開室時間 午後5時00～午後6時30分（申込時 要相談）
- ◆ 場 所 教育センター他（オンラインでの実施も可能です。申込時に御相談ください。）
- ◆ 対 象 者 初任者教員等 経験年数の少ない教職員 ※複数で相談を希望することも可
- ◆ 対 応 者 教育センター指導主事等
- ◆ 内 容 仕事に関するすべての悩みを相談できます。（授業づくり・学級経営・保護者対応等、何でもOK）
- ◆ 申込方法 メールまたは電話(06-6388-1455)にて申し込みください。

メール送信先 ① 初任者研修担当へ

校支援システムにて、初任者研修担当 宛

② 教育センター代表メールへ s-educ@city.suita.osaka.jp

以下の内容を記入ください。

件 名：さつきらるーむ

本 文：①学校名 ②相談者名 ③希望日時 ④相談内容

第2回 講座の学びから授業づくりを問い直そう

シリーズ連載企画では、“日々の授業の当たり前！？”を問い直します。

第2回目のテーマは、「能力ベースの授業づくり実践講座(1学期編)から、日々の授業づくりを問い直す」です。能力ベースの授業づくり実践講座は、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。教材研究会では、授業者の作成した指導案をもとに、能力ベースの授業づくり3つの視点(Why, What, How)で議論します。授業研究会では、研究授業での子どもの姿を通して、学習指導要領が目指す資質・能力が育成できていたかを議論します。本講座では正解を教えてもらう受け身の研修会でなく、受講者が主体的に学び納得解を見出すことを大切にしています。

Eセット授業研究会 5月26日(金)

物事を批判的に思考する授業づくりを意識していますか？

Eセットから学ぶ 授業づくりのポイント

「本物」との出会いを通して、「批判的思考」を育成する

➡「批判的思考」は、極めて汎用性が高く全教科で育成したい能力です。「自分がやったことが本当にいいか、正しいか」と考えるためには、大人と同系の「本物」に出会わせることが有効です。批評文を書く本単元では、大人が書いた「握手」の論考や作品分析に出会わせることで、自分の文章を批判的に思考するきっかけとなります。

受講者の感想

汎用性のある能力(キーコンピテンシー)でどの教科にも通ずる能力があることが分かった。大人と同系の文脈に出会わせることが大切と聞いて、小学校の話す・聞く単元にも使えそうだと感じた。

Fセット授業研究会 6月5日(月)

物事を多面的、多角的に考察する授業づくりを意識していますか？

Fセットから学ぶ 授業づくりのポイント

正解でなく、「多面的、多角的」に物事を判断する力を育成する

➡社会科の授業では、歴史的な見解、解釈を覚えることでなく、多面的、多角的に物事を判断する力を育成することが大切です。資料集やインターネットから、取捨選択したり、お互いの考えたことに対して認め合ったりする中で、物事を判断する目を磨くことが期待されます。

受講者の感想

生徒の発する言葉をつないで構造化していく授業づくりは、国語でも必要と感じたので、もっと教材研究を密に行っていくことが大切だと感じました。

Aセット授業研究会 6月15日(木)

納得解・最適解を目指す問いを 授業づくりで意識していますか？

Aセットから学ぶ 授業づくりのポイント

多面的・多角的な考えを通して、納得解・最適解に導く「問い」を設定する

➡今まで使われてきた「なぜ～したのか？」の問いは、資料を調べれば分かる答えになってしまいます。史実を基に、多面的・多角的に思考し、納得解・最適解に導く問いを設定することが大切です。

受講者の感想

歴史上の人物の偉業や行ったことを今の現代の仕組みに置き換えて説明することで、今の自分事に考えていくことができる、そして歴史を学ぶ良さを子供たちに実感させることができると思いました。

Bセット授業研究会 6月30日(金)

学習指導要領の内容だけでなく 意図を解釈することを 意識していますか？

生活の中にある算数に 興味を持つような授業づくりを 意識していますか？

Bセットから学ぶ 授業づくりのポイント

学習指導要領の意図を解釈する

➡領域変更だけでなく、「なぜか？」を問うことで変更の意図まで考えを深められます。

日常にある算数が見える子供達を育てる

➡今回の「どちらが速い？」など、何となく考えていることの裏側に算数で説明できることがあります。日常にある算数が見つけられる子供達を育てるためには、能力ベースの授業改善が必要不可欠です。

受講者の感想

能力ベースの授業をつくるためには子供達の経験や思いをたくさん話すことができる土台が必須だと実感しました。子供たちが一人ひとり知っていることをすり合わせ算数の世界や各教科の中に子供達と一緒に入り込んでいきたいと思いました。